

# 持続可能なものづくり

## —バックスタイルにデザインポイントをおいたりメイク服の考案—

Sustainable Creation  
—Designing Upcycled Garments Focusing Back Styles—

井口 多恵子 軽部 幸恵  
IGUCHI, Taeko KARUBE, Yukie

### I はじめに

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」は、2016年から2030年までの国際目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されている<sup>1)</sup>。国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (SDSN) などが2019年6月28日に発表した「世界のSDGs達成度ランキング」によれば、日本は162カ国中15位。昨年と順位は変わらず、ジェンダー平等や責任ある消費・生産、気候変動対策、パートナーシップに大きな課題があると指摘された<sup>2)</sup>。この課題を克服すべく、国として様々な取り組みがなされている。

ファッション産業もまた持続可能性を重視する流れの中にあることは明白である。ラグジュアリーファッション、ファストファッションを問わず多くのアパレルブランドが持続可能に向けた取り組みを行っている。2018年12月20日の朝日新聞朝刊では「回顧2018」のタイトルで2018年のファッションを振り返り、多くのブランドがファッションに倫理性や持続可能性を求める取り組みを行っていることを取り上げている。2000年代に広まったファストファッションからエシカルファッションへの移行と言えよう。この流れを加速させるきっかけの1つとなったのは、2013年にバングラデシュで起きた「ラナ・プラザ」崩壊事故である。このビルの中には5つの縫製工場があり、主に先進国向けの既製服が作られていた。人件費が安いことで受注が増え、バングラデシュの経済成長へとつながった。ラナ・プラザの崩壊は、生産性を上げるために強度が不十分な工場で操業を続けたことが原因とされている。1000人以上の労働者が犠牲となった。この事故

をきっかけに始まったのがファッションレボリューションである。どのように作られた服を買うべきかを考えようという運動で、日本ではファッションレボリューションジャパン<sup>3)</sup>が中心となって活動を行っている。

私たちが安い服を手にする事ができるのには理由がある。SDGsの10番目の目標「人や国の不平等をなくそう」を考えると、服の値段が安くなることで多くの人が流行りの服を着ることができるようになり不平等が緩和された一方で、ラナ・プラザで起こった事故のような犠牲があり、そこには未だに不平等が存在することを忘れてはいけない。

安い服と並んで問題となるのが捨てられる服である。食品ロスが問題視される昨今だが、同様のことがアパレル品にも起こっていることを仲村らがまとめている<sup>4)</sup>。2018年に明らかになったバーバリーの売れ残り品焼却処分の話は記憶に新しい。その額は41億円にもなるという。バーバリーに限ったことではない。日本でも年間10億点もの新品衣料が廃棄されている可能性があるという。売れ残りの服は、在庫処分業者が再販する一部を除きほとんどが焼却される。国内の衣料品の供給量はこの20年で約20億点から40億点へ倍増した。一方で家計の衣料品購入単価は約6割に減った。衣料品が安く買えるようになったからだ。メーカーは、より安く売するためにコストを下げようと、人件費の安いバングラデシュなどに大量発注するようになった。その結果売れ残りが発生する。安い服を大量に生産することが大量廃棄につながっているとも言える。問題は大量廃棄だけではない。廃棄すれば製造コストの安さは帳消しになる。そのしわよせは、働く人たちに向かう。彼らの低賃金・長時間労働につながるの

だ。日本での働き手の多くは低賃金の外国人技能実習生である。

SDGsの12番目の目標「つくる責任 つかう責任」を考える。SDGs達成度において問題とされた項目でもある。私たち消費者には「つかう責任」がある。消費者がつかうものに何を要求するかは、生産者がどんなものをつくるかに直結する。消費者はつかうもののバックグラウンドを十分に理解し、持続可能な社会の実現に向けたエシカル消費を考えたい。「つくる責任」を担うアパレル企業の取り組みは先述の朝日新聞に掲載された例があるが、宮崎は、持続可能なビジネスモデルは、使用済み衣服を回収し、100%リユース・リメイク・リサイクルを行って閉ループを実現することとしている<sup>5)</sup>。

これまで述べてきた現状は、これから社会で活躍する若い世代に伝えることが必要である。当然、大学としての取り組みも盛んになり、各々が大学の特色を活かした活動を行っている<sup>6)</sup>。ファッションを学び、「ものづくり」を行う本学においても積極的に取り組むべき問題であろう。

本研究では不要衣服のリメイクを行った。衣服のリメイクに関しては、小学校、中学校、高等学校の家庭科の教科書でも多く取り扱われている<sup>7)</sup>。また平成29年度告示の中学校家庭科指導要領では「衣服などの再利用の方法」が新設され、そのための学習教材の開発<sup>8)</sup>なども行われている。リメイクは、問題となっている廃棄衣料削減の手段として有効である。また元の衣服の形をうまく利用することで、新たに必要となる資材や製作にかかるエネルギーの削減にもつながる。ただ現状では、バッグなどの小物へのリメイクが多いように思われる。そこで本研究では、よりデザイン性の高い魅力的な衣服へのリメイクを目指し、本学で継続的に制作してきた「バックスタイルにデザインポイントをおいたドレス」に倣った作品を制作した。なお、作品は杉野服飾大学・杉野服飾大学短期大学部 教員研究作品集（平成27～30年）に掲載されたものである<sup>9)10)11)12)</sup>。

## II 制作

### II-1 リメイク作品1—ジャケットとワンピースドレスからワンピースドレスへ—

#### II-1-1) 材料

- ・刺繍入りジャケットとワンピースドレス（図1）
- ・ポリエステルミシン糸60番
- ・接着テープ

#### ・スナップボタン



図1 リメイク前 刺繍入りジャケット（左）とワンピースドレス（右）

#### II-1-2) 制作

##### a) リデザイン

オーバーサイズのジャケット、ワンピースドレス（図1）から、細身のシルエット、膝が隠れるくらいの丈（ミディ丈）のワンピースドレスにリメイクした。

前側は刺繍ジャケットの雰囲気を崩さず、後ろ側はデザインポイントとしてバスルススタイルを表現し、前後の表情に変化を付けた。袖ぐりはアメリカンアームホールラインに変えた。

##### b) 解体

###### ジャケット

- ・裏地が付いているので解体する際には表地との釣り合いを注意しながら解体した。
- ・両袖は身頃からはずし、袖下の縫い目をほどき、前身頃側の裾に付け足すパーツを裁断した（図2）。
- ・前身頃側は元の形を活かした。
- ・後ろ脇身頃はほどき、ベルト布を裁断した（図3）。



図2 袖（前身頃の裾へ）



図3 後ろ脇身頃（ベルト布へ）

###### ワンピースドレス

- ・スカート部分として必要な丈で裁断した（図4）。
- ・両袖ははずし、袖下の縫い目をほどきベルト布に使用した（図5）。



図4 スカート部分の裁断



図5 袖（ベルト布へ）

c) 縫製

スカート部分：後ろ部分に膨らみを持たせるためにギャザーを寄せた(図6)。図5の布でベルトを作り、ウエストの始末をし、スナップボタンを付けた(図7)。



図6 ギャザーを寄せるための縫い目



図7 ウエストの始末

前後身頃部分：図2の布に裏地を当てて縫い代始末をし、前身頃側の裾に縫い止めた(図8、図9)。



図8 付け足した裾 (ジャケットの表側)



図9 付け足した裾 (ジャケットの裏側)

全体のシルエット確認のために待ち針で仮止めをしてマネキンに着せ、シーチング布を当ててアメリカンアームホールラインを確認した(図10、図11)。



図10 アームホールの確認(前側)



図11 アームホールの確認(後ろ側)

バックスタイルにリボン型の装飾を形作るため、待ち針で仮止めしながら後ろ中心の布を引き上げた(図12、図13)。



図12 後ろ中心(上げる前)



図13 後ろ中心(上げた後)

決定したアームホールラインに沿って接着テープを貼って補強し、裏地を控えてまつり縫いをして縫い代始末をした(図14、図15)。



図14 縫い代の始末(裏)

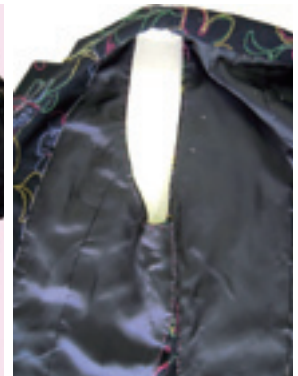


図15 アームホール拡大図縫い代の始末(裏)

後ろ中心の生地を上引き上げてリボン型の装飾を形作り、リボンでウエストを締めたような状態を保つためのベルト布 (図3) を作った (図16)。リボン型の装飾の上部にベルト布を通すことができるように細工した。ジャケットの脇部分にベルト通し口を作ってベルトを通し、スカート部分のベルトと前側でとめられるようにした (図17、図18、図19)。



図16 リボン型用のベルト布



図17 ベルト布の通し口



図18 リボン型用のベルト (前)



図19 リボン型の装飾部分 (裏)

### II-1-3) 結果

材料としたジャケット、ワンピースドレスからはずした袖を他の箇所で活用し、裏地を利用するために手縫いで仮止めを行う、という工夫により、残布は黒ワンピースドレスの上部のみだった。

後ろのギャザースカート部分とリボン型の装飾で控えめな膨らみだが、ボックススタイルのような雰囲気表現することができ、ボックススタイルにポイントを持たせることができた。アメリカンアームホールラインにすることで肩幅が狭くなり、素材の厚み感が軽減され、華奢なショルダーラインになった。前後で雰囲気の違うワンピースドレスが制作できた (図20、図21)。



図21 完成作品 (リメイク後・後ろ側)



図20 完成作品 (リメイク後・前側)

## II-2 リメイク作品2—ボックスシルエットのワンピースドレスからタイトシルエットのワンピースドレスへ

### II-2-1) 材料

- ・ワンピースドレス (図22)
- ・ポリエステルミシン糸60番
- ・スナップボタン
- ・くるみボタンキット
- ・サテンリボン



図22 リメイク前のワンピースドレス (左:前、右:後ろ)

## II-2-2) 制作

### a) リデザイン

ボックスシルエットのワンピースドレス (図22) から、細身のシルエット、膝が隠れるくらいの丈 (ミディ丈) のワンピースドレスにリメイクした。

スカート部分において、II-1リメイク作品1では後ろ中心部にギャザーを寄せたので、本作品はタックをとってボリュームを出した。前後身頃部分には解体した袖を使用し、袖山の曲線、袖口のカフス、袖下線をそのままネックラインやアームホールラインとした。

### b) 解体

#### ワンピースドレス

- ・身頃部分には裏地が付いているので解体する際には表地との釣り合いを注意しながら解体した。
- ・両袖は身頃からはずした (図23)。袖下の縫い目をほどこき、袖口のカフスはそのまま残した。カフスに付いていたスナップボタンをはずした。
- ・スカート部分として必要な丈で裁断した (図24)。残布で身頃部分とスカート部分に使用する、バイアステープを裁断した。



図23 袖 (身頃部分へ)



図24 スカート部分の裁断

### c) 縫製

スカート部分：残布のバイアステープでウエストの縫い代始末をした。後ろ中心に左右対称のタックをとり、タックが開かないように縫い止めた (図25、図26)。ファスナーは既に付いているファスナーを利用した。ウエストの縫い代始末後、後ろスカートのボリュームを支えるためにサテンリボンを裏側に縫い止めた。



図25 スカートのウエスト始末



図26 図25の拡大図

身頃部分：袖山の縫い代は寄りぐけで始末した。前身頃は袖口カフスをネックラインに、袖下をアームホールラインに使用した。後ろ身頃は袖山をネックライン、アームホールラインに使用した。ハイネックラインになるように袖口カフスからはずしたスナップボタンや残布で製作した1cm幅のテープを縫い付けた (図27、図28、図29、図30、図31)。

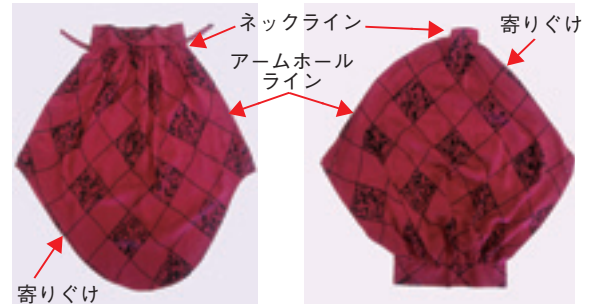


図27 解体した袖を使用した身頃 (左：前身頃、右：後ろ身頃)



図28 前側ネック部分 (裏)



図29 後ろ側ネック部分 (裏)

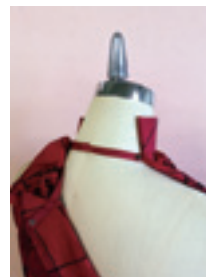


図30 ネック部分の止め方①



図31 ネック部分の止め方②

脇は袖の幅の一番広いところにスナップボタンを付け、その上に装飾を兼ねてくるみボタンを付けた。スカートと身頃をスナップボタンで止めた (図32、図33)。



図32 脇のくるみボタン付け



図33 スカート部分のウエストとスナップボタン付け

## II-2-3) 結果

材料としたワンピースドレスからはずした袖を身頃部分として活用し、裏地を利用するために手縫いで仮止めを行う、という工夫により、残布はワンピースドレスの身頃上部のみとなった。

袖のカフスと袖口に寄せたギャザー、後ろネックラインに不揃いのタックをとることで布の陰影、しなやかさが表現されたワンピースドレスが制作できた(図34、図35)。



図34 完成作品  
(リメイク  
後・前側)



図35 完成作品(リメイク後・後ろ側)

## II-3 リメイク作品3—ジャケットとワンピースドレスからワンピースドレスへ—

### II-3-1) 材料

- ・フレンチスリーブ、リバーシブルのジャケット(図36)
- ・ワンピースドレス(図37)
- ・ポリエステルミシン糸60番
- ・接着テープ
- ・スナップボタン
- ・ヘアコーム



図36 リメイク前のリバーシブル  
ジャケット(柄:表、黒色:  
裏)



図37 リメイク前のワンピース  
ドレス(後ろ)

### II-3-2) 制作

#### a) リデザイン

フレンチスリーブでリバーシブルのジャケット(図36)、ワンピースドレス(図37)から、細身のシルエット、膝が隠れるくらいの丈(ミディ丈)のワンピースドレスにリメイクした。

ジャケットの表(柄側)と裏(黒色側)、パネルラインのスリットを活かし、ラップスカートのようにウエストに巻いたときの表裏の色の違い、裾線の不揃いさに着目した。後ろ側のデザインポイントとして、ジャケットの黒色部分とつながるように黒色ワンピースドレスの一部を利用して、蝶結びを表現した。ショルダーラインに対して前側後ろ側に渡ってタックをとった。

#### b) 解体

##### リバーシブルジャケット

- ・脇の縫い目をほどこき、1枚の平面になるように再度縫い合わせた(図38)。



図38 リメイク前のリバーシブルのジャ  
ケット(左:表面、右:裏面)

##### ワンピースドレス

- ・身頃から両袖をはずした(図39)。袖は袖下の縫い目はずし、アームホールの見返し布、ヘアアクセサリーに使用した。
- ・後ろ側の中心とパネルラインの縫い目は、裾からウエストまでほどこいた。



図39 袖をはずしたワンピースドレス（後ろ）

c) 縫製

再縫製する箇所が少なく、縫いやすい素材と判断し、ミシンを使わずに手縫いで縫い合わせた。

ワンピースドレス：肩幅を狭くするために肩線に対し前後に渡ってタックをとった（図40、図41）。



図40 肩線のタック

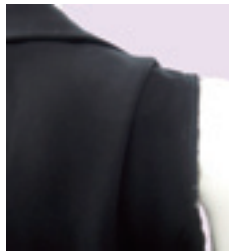


図41 図40の拡大図

アームホールの縫い代始末は残布でバイアステープを作り、見返し始末をした（図42、図43）。



図42 アームホールの見返し始末



図43 図42の拡大図

後ろ中心の縫い目、パネルラインの縫い目を裾からウエストまでほどき、結び目が容易に作れるように細工した（図44、図45、図46、図47）。



図44 縫い目をほどいた後ろ側



図45 図44の拡大図

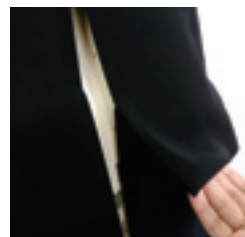


図46 結び目の細工



図47 結び目

ジャケットをラップスカートのように用いるためにスナップボタンを付けた（図48、図49）。袖の残布でヘアアクセサリを制作した（図50）。



図48 スナップボタン付け位置



図49 図48の拡大図



図50 ヘアアクセサリ

### II-3-3) 結果

材料としたジャケットは一部分ほどこき、再度縫い合わせただけで残布はなかった。ワンピースドレスは、はずした袖を縫い代始末用のテープとヘアアクセサリに活用し、残布はその残り布のみとなった。リバーシブルジャケットの流れるような柄と黒色とのバランス、イレギュラーな裾線の流れがシンプルなシルエットに動きをもたらしした。ショルダーラインのタックで肩幅をバランス良く調整できた。2種類の材料の黒色を利用して後ろ側に結び目を作り、バックスタイルにデザインポイントのあるワンピースドレスが制作できた(図51、図52)。



図51 完成作品  
(リメイク  
後・前側)



図52 完成作品(リメイク後・  
後ろ側)

## II-4 リメイク作品4—パンツとネクタイからワンピースドレスへ—

### II-4-1) 材料

- ・スリムパンツ(図53)
- ・ネクタイ
- ・ポリエステルミシン糸60番
- ・接着テープ
- ・スナップボタン



図53 リメイク前のスリムパンツ  
(左:正面、右:横)

### II-4-2) 制作

#### a) リデザイン

スリムパンツ(図53)とネクタイから、細身のシルエット、膝が隠れるくらいの丈(ミディ丈)のワンピースドレスにリメイクした。

パンツのウエスト側を裾に、裾側をショルダーラインとする。バックスタイルのポイントとしてネクタイを使用し、前後の表情に変化を付けた。

#### b) 解体

##### パンツ

- ・股下の縫い目をほどこいた。
- ・脇の縫い目はワンピースドレスのアームホールに必要な長さを観察しながらほどこいた(図54、図55、図56)。



図54 前側とネック  
ライン



図55 横とアーム  
ホールライン

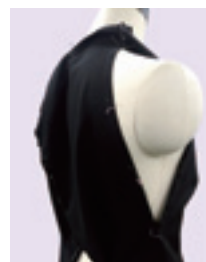


図56 後ろ斜めと  
アームホー  
ルライン



### c) 縫製

アームホールの縫い代に接着テープを貼って補強した。はずした縫い目を固定するためにコバミシンをかけた。肩をはずして着脱できるようにスナップボタンを付けた (図57)。

前側はバストの高さを出す必要があり、ダーツの役割とデザイン的要素を含んだ縫い方をした (図58)。



図57 アームホールのコバミシンと肩のスナップボタン付け



図58 肩、前ネックラインとバストのダーツ

バックスタイルにネクタイを装飾として使用するために、配置を検討した (図59)。紙で仮のネクタイを作成し、使用するネクタイの選定と仮止めをして配置を更に検討した (図60)。1本を3パーツに分けて後ろ側全面に配置する装飾とした。ネクタイはバイアス地の目であるため、ワンピースドレスとのつりあいに注意して縫い止めた。



図59 ネクタイの配置を検討中



図60 ネクタイ位置の仮止め

### II-4-3) 結果

材料としたパンツ、ネクタイからの残布はわずかであった。ほどいた縫い目も他の箇所と縫い合わせたり、ミシンでステッチをかけたりした。元の形を最大限に活かして制作できた。

裾幅とヒップ位置のゆとりが予想以上に少なくなり、着脱時のスムーズさには欠けるが、ネクタイの

フォルムを活かし、ネックライン、アームホールラインとネクタイが直線的な構成でバランスをとることができた。ネクタイは手縫いで止めたので、陰影が付いて立体感が出た。前後で雰囲気の違うワンピースドレスが制作できた (図61、図62)。



図61 完成作品 (リメイク後・後側)



図62 完成作品 (リメイク後・後ろ側)

### III おわりに

本研究では、持続可能なものづくりとして不要衣服のリメイクを行った。材料となった不要衣服の素材、デザイン、色柄などの特性を引き出せるようにシルエットを決定し、これまでの研究の継続としてバックスタイルにデザインポイントをおいてリデザインした。その結果、リメイク品でありながら、よりデザイン性の高いフォーマルな装いのワンピースドレス4点を制作することができた。いずれの作品も残布はほとんどなく、不要衣服を有効に活用したりメイク服となった。

制作を通して、衣服の上下を逆さ使用、手縫いによる縫製など、布地から衣服を作る過程とは違った視点を持つことができた。ドレーピングで衣服の形を考え、変化させていくことは難しい面もあるが、服作りの基礎的な知識と技術を修得していれば、基本のパターンに捉われることなく面白い形状を発見できる可

能性があり、創造力の向上になると感じた。また衣服の解体の段階では、素材の特性、縫製方法や平面の形状を観察することができ、素材に合った縫製技術の向上や製図の理解につながると感じた。不要衣服のリメイクは、「持続可能なものづくり」の手段としてだけでなく、「服作り」に関する知識や技術を豊かにする効果もあると考えられる。今後の研究と学生の教育に役立てていきたい。

pinterest

<https://www.pinterest.jp/pin/196328864979140841/>

(2019年2月19日閲覧)

## 註

- 1) 外務省HP JAPAN SDGs Action Platform「SDGsとは」  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html> (2019年8月6日閲覧)
- 2) サステナブル・ブランドジャパン HP  
[https://www.sustainablebrands.jp/news/jp/detail/1193050\\_1501.html](https://www.sustainablebrands.jp/news/jp/detail/1193050_1501.html) (2019年8月6日閲覧)
- 3) ファッションレボリューションジャパン HP  
<https://www.fashionrevolution.org/asia/japan/>  
(2019年8月5日閲覧)
- 4) 仲村和代 藤田さつき 大量廃棄社会 光文社 (2019)
- 5) 宮崎正弘 跡見学園女子大学マネジメント学部紀要 第23号 (2017) p. 47-68
- 6) The University Impact Rankings HP  
[https://www.timeshighereducation.com/rankings/impact/2019/overall#!/page/0/length/25/sort\\_by/rank/sort\\_order/asc/cols/undefined](https://www.timeshighereducation.com/rankings/impact/2019/overall#!/page/0/length/25/sort_by/rank/sort_order/asc/cols/undefined)  
(2019年8月10日閲覧)
- 7) 松本浩司 名古屋学院大学論集 社会科学編 (2016) p. 145-163
- 8) 永田智子 小林裕子 村田晋太郎 兵庫教育大学研究紀要第54巻 (2019) p. 117-125
- 9) 平成27年度第12回 杉野服飾大学・杉野服飾大学短期大学部 教員研究作品集 p. 5
- 10) 平成28年度第13回 杉野服飾大学・杉野服飾大学短期大学部 教員研究作品集 p. 6
- 11) 平成29年度第14回 杉野服飾大学・杉野服飾大学短期大学部 教員研究作品集 p. 6
- 12) 平成30年度第15回 杉野服飾大学・杉野服飾大学短期大学部 教員研究作品集 p. 7

## 参考資料

一般社団法人 Think the Earth 編著  
未来を変える目標 SDGs アイディアブック (2018)